

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社 エーティ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	平成26年1月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=2272100377-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には小さい菜園があり、耕すところから収穫までの作業を、近隣やボランティア・ご家族様に教えて頂きながら、利用者様と職員と一緒にしています。一緒に育てた野菜を収穫・調理し召し上がって頂き、季節を感じられるようにしています。近隣の方とは季節ごとにイベントも企画しており、特に秋祭りの時には、山車がホーム駐車場に降下するので、それを楽しみに行っています。楽しい踊りの見学や休憩時間には利用者様にも沢山声かけて頂き、地域の方との触れ合いを大切に考えています。ほほえみでは、誰もがその人らしく過ごせるよう見守り支援を行っており、のんびり穏やかにいつも皆で笑顔があふれる家、そんなホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは秀麗富士を仰ぐ絶好の位置にあり、創業者が定めた「ひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します」という理念と、それに由来する「ほほえみ」というホーム名称に、管理者・職員が誇りを持って、利用者の介護に当たっている。福祉に対する行政の理解も深く、地域密着型に相応しく、区長の理解・運営推進会議への民生委員6名の参加・地域とホーム行事への相互参加等により、理念の実現に努めている。個々の支援に当たっては、利用者が「のんびり過ごしてもらおう」と「その為に放置するとは違う対応が必要」という管理者の強い決意の他、諸々の業務改善に取り組んでいる姿は印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『私たちはひまわりのような笑顔で自由な明るい生活が送れるように支援します』という理念を、管理者、職員一同共有し取り組んでいる。	創業者の理念とそれに基づくホーム名称に誇りを持ち、管理者・職員が一丸となって利用者の介護に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設の際、地域の方に集まっていた頂き、理念や取り組みをお伝えご理解いただいている。また、散歩時には近所の方と世間話をしたり、地域の行事に参加させていただくことにより、交流を深めている。	創業時の説明、昨年5月の併設小規模多機能施設の開所に伴い、益々地域との連携を深め、日常的に交流している。区長や民生委員との連携も良く図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月に大中里区を通じ認知症啓発研修をおこなった。また、毎年大中里区祭り会の方々と利用者様とで飲食を兼ね交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施している。その際外部の方の要望や意見などを交換し支援に活かしている。地域の行事への参加や施設内の行事等について報告し合い、お互いに参加できるよう協力し合っている。	区長や民生委員6名・複数の市職員も参加し、2ヶ月に1回着実に開催されている。勿論家族も参加し、日常活動や時期の活動等の報告を基に、意見や要望等が出され、それらが活かされた運営が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模ホーム部会に参加して頂き情報交換したり、運営推進会議にも必ず出席して頂き協力し合えるようにしている。	市の担当者とは日常的に報告・連絡・相談が行われている。行政の理解や支援があり、小規模ホーム部会への参加を通じて、相互に協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則して行っていない。 身体拘束0宣言をし、家族にも理解して頂いている。	身体拘束0のマニュアルを整備し、禁止対象行為を具体的に理解し、拘束を行う場合の手続きも定めて取り組んでいる。玄関も屋間は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度のミーティングの際、職員の対応や対処について意見交換をし、お互いを振り返り、見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている利用者様がいらっしゃるので、職員にも浸透している。また研修に参加し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、御家族の不安や疑問に思うことを伺い、十分な説明と話し合いをし、納得いただいたうえで契約いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日々の生活の中から聞き取り、その情報を職員で共有し反映している。ご家族については、面会時に聞くことを心掛け、できるだけ要望にそえるよう努力している。	入所時のアセスメント・日常の観察・面会時の家族との対話等を通じて意見・意向を把握し、ケアプランに組み込んで日常の介護に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、全職員が意見や提案をできるような時間を設けている。またミーティングで取り上げてほしいことを記入するノートもあり、職員が積極的に意見を出せるようにしている。またそれを多方面に反映している。	職員ミーティングの率直さは記録にも表わされており、管理者と職員が一丸となって利用者や家族の為に意見を戦わせ、それらをホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の性格、適正、感性を知り、励ましやねぎらいの言葉を掛けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に合った研修への参加を促している。また、ミーティングの際に管理者や職員の看護師が講習を開き職員のスキルアップを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同で行われている研修や新年会、運動会など、交流できる場にはすすんで参加し、情報交換をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	『傾聴』という言葉を理解し、日々の会話の中から聞き取るように努めている。しかし、入所を理解できない方、言葉に出すのが難しい方もいるので思うように聞き取れないこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談の際、ご家族の意向や不安なことをじっくり聞き、意向にはできるだけ添えるように、不安な事は取り除けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム対象外の場合は、担当窓口と相談し他のサービスの利用を検討していただくようお願いしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるため、一緒に作業する中では、常に尊敬し、教えていただく姿勢で過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にご家族の意見や意向を伺い、その希望に添えるよう職員が支援するという関係を、築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に自宅に寄り植木の世話をしたり、近所の方とお話をする事により、関係を保てるようにしている。また馴染みの方には、いつでも面会に来ていただけるようお伝えしている。	昔馴染みの人や場所・物を大切にする取り組みは、来訪者の歓迎・外出時の寄り道・居室への持ち込み等を通じて行われている。また、「新しい馴染みも大切にする」という視点からの取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとつの作業を職員を交えた数人で行うことにより、みんなで談笑し、信頼関係を築いている。その中でお互いの存在を確認し、誘い合ったり、支えあったりする姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了は、入院後転院、死亡のケースがほとんどです。葬儀には代表が出席している。ご家族の必要に応じて相談にのる体制でいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き取るように努め、会話から聞き取れない方や自己決定ができない方は、その方が行動で出すサインから、また生活歴、ご家族の意向も含め、職員全員で共有し話し合っている。	日常の関わりやお茶の時間での会話等の中からその人の思いや意向を掴み食事の好みや好きなDVDなども見つけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様訪問時に聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に記入することにより、全職員が情報を共有し、把握できている。また特記事項を記入するノートもあり活用している。職員は介護記録とノートには必ず目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気付きは随時報告し、ミーティングで、現状に適切な支援を話し合い、全職員で共有し、介護計画に反映している。	初期のアセスメントや担当職員の気付き・日々の介護記録等から介護計画を作り担当者会議で確認しながら定期的なモニタリングを行い次の介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には毎日の気付きを記入している。特記事項は更に専用のノートに二重に記入することにより職員への情報の浸透をはかっている。工夫や実践を書くことにより、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、ご本人やご家族の意向を伺い、それに添えるよう随時対応を検討し、支援している。そのときその方にあったサービスができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の暮らしの中で、その方ができることは、可能な限り力を発揮していただきながらも、無理のないよう支援させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月に2回の往診があるため、利用者様の皆様にはそこで医療を受けていただいている。しかし、ご家族やご本人がなじみの医療機関での受診を希望される場合は、そちらで診ていただいている。	協力医療機関との連携が確立され月2回の定期往診や緊急時対応の体制も整えられている。看護師資格を持つ職員の協力も大きな戦力になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しているため、健康管理は看護師を中心に行っている。気づきや異変は随時職員に伝えられ、適切な対応を話し合っている。また、看護師は24時間オンコールになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の協力により、迅速かつ安心できる対応をすることができている。また、病院との情報交換も行っている。入院中は常にご家族と連絡を取り、状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期ケアの書類を作成し、ご家族の意向を伺っている。	ホームとして終末期対応へ取り組んでおり、家族との話し合いや意向確認書等の取り交わしも行われている。	終末期対応の在り方について全社的に利用者・家族との意向・同意確認書等、職員間の連携、マニュアル等の整備など体制作りへの取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、全職員が把握している。またミーティングの際に、看護師が講習会を開くなどして、実践力アップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は、9月・11月に避難訓練を行った。自火報、スプリンクラーの使い方の講習も開いていただいている。夜間一斉メール送信を行い返信して頂くなどは行った。近隣の方への協力もお願いしてある。	年2回の避難訓練や地域防災訓練への参加・スプリンクラー等も整備され次回避難訓練には近隣の参加の協力関係も築かれている。	万が一の災害に備え、非常用品の備蓄を準備する取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを忘れず、個々の生活歴を把握し、人格を尊重した言葉かけや、対応を心掛けている。	玄関ホールに利用者個人の尊厳やプライバシー保護の書面が掲示され、日々の声掛けやトイレ誘導などの対応についても職員間で注意しあいながらの支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけご本人表現や自己決定ができるようその方にあわせた声掛けを行っている。しかし利用者様の中には意思表示するのが困難な方もいらっしゃるので工夫するよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため、すべて希望に添えるわけではないが、できる限りその方の意向を尊重し、応えられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で決められる方にはお洋服を選んでいただいています。希望により美容室の方が訪問されます。お肌のお手入れをされる方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を収穫し、調理したり、行事食を作ることで季節を楽しんでいる。調理から片付けまでの一連の作業は、個々が無理せずできることを見つけ、職員と一緒にやっている。	利用者の好みを聞き職員交代で食事作りを行っている。その日の利用者の状況やケアプランに合わせて食材の形状や質にも気を配り、また、利用者の出来る協力を促しながら利用者と職員が会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後チェックしている。また定時に水分補給する時間を設けている。その方の状態に応じて食事量、水分量を変えたり、摂取しやすい形状にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の力量に応じた、口腔ケアをし、夜間は義歯のつけ置きも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回排泄チェック表に記入することにより、全職員が個々の排泄パターンを把握し、定時、随時に声掛けをし、その方に合わせた支援をしている。	利用者の日頃の様子や排泄チェック表を活用し極力おむつに頼らずその人に合わせた自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、排便の状態を全職員が把握している。野菜や繊維質を多くとること、トイレの前に歩いていただくなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自己決定できる方には、声掛けをし本人の希望に添えるようにし、その他の方は家族から意向を伺っている。体調を見ながら無理のない入浴を支援し、拒否のある方には声掛けの工夫をするが無理強いはいしない。	1日おきの入浴を基本に、利用者の希望を聞きながら毎日入浴の支援や足湯などを併用し無理強いしないで入浴を楽しむ取り組みを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が日中リビングで過ごしているが、休息をご自分から希望される方や、ご自分で居室へ行かれる方もいる。その日の個々の体調を見て、職員が休息の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイルを作り、最新の情報を添付している。個々が使用する薬名と作用の表を作り理解に努め、薬によっては服薬前後に血圧測定、頓服の場合は記録に記入し、全職員で把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や力を把握し、できることをやっていたいしている。その際には感謝の気持ちを伝えている。嗜好品や楽しみは日常の会話の中から見つけ、支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や嗜好品の買い物など、個人の状態に合わせて行っている。地域の行事にご本人の希望を伺い参加するようにしている。	毎月のイベント企画や近隣の祭りへの参加・日常の散歩や買い物・菜園の手入れやベランダ・デッキでの外気浴など戸外へ出掛ける支援に取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上こちらで預かり管理している。金銭に変化があった時は必ず職員が出納帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書ける方には、暑中見舞いを書いていただいたりしている。電話はご本人の希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を作り、常に明るく清潔な空間づくりに心掛けている。リビングには季節に合わせた壁画やオーナメントを飾り、季節を感じられるようにしている。	玄関回りやリビング・廊下・トイレ等明るく清潔に整えられ、和室やソファなど穏やかに過ごせる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席、ソファ、和室と異なる空間があるため、利用者様の好きな所で過ごしていただいている。その際お互い誘いあう姿も見られ、雑談、読書するなどし、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家で使い慣れたものを持ち込んでいただくことにより、利用者様が居心地良く過ごせるようにしている。	家族の協力を得て馴染みの家具やTV、置物・母親の遺影やお気に入りの自画像などが置かれ落ち着いた居室環境が整えられている。	馴染みの家具や置物のみならず利用者が穏やかに落ち着いた居室となるように、思いや趣味に関わるものなども配置できるような取り組みが期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・エレベーター・手すりを設置することにより、利用者様が安全かつご自分の力を発揮しやすく、できるだけ自立した生活を送れるよう配慮している。		